

報 告

講演在宅医療において薬剤師に求められる役割に関する
医療介護系多職種を意識調査
～福山在宅どうしよう会での活動を通して～

加地 弘明¹⁾*, 弘中 沙樹¹⁾, 平田 悟史²⁾, 小野 浩重¹⁾

¹⁾ 就実大学薬学部薬物療法設計学研究室, ²⁾ 株式会社ファーマシイ

**Consciousness survey to medical staff regarding the role of
pharmacists in home medical care
-Through activities at Fukuyama Zaitaku Doushiyoukai-**

Hiroaki Kaji¹⁾*, Saki Hironaka¹⁾, Satoshi Hirata²⁾, Hiroshige Ono¹⁾

¹⁾ *Laboratory of Pharmacotherapy design, School of Pharmacy, Shujitsu University*

²⁾ *PHARMACY Co.Ltd.*

(Received 31 October 2017; accepted 6 December 2017)

Abstract: In Japan, the number of patients receiving home medical care has been increasing for the past 10 years, and participation of pharmacists has increased in importance. In this study, we conducted a questionnaire survey in order to clarify the role of pharmacists required from various medical staffs and to encourage inter-professional cooperation in home medical care. As a result, many medical staffs related to home medical care had recognized the necessity of pharmacists and its roles, for example “evaluation of side effect” “management of medicine” and “prescription proposal”. However, the doctors and/or nurses were almost selected as a person who is actually consulted about medicine. These results suggested that the roles of pharmacists are still poorly understood in practice. Therefore, the pharmacists is necessary for sending out about “what we can do” by themselves to be understood to other medical staff regarding the role of pharmacists in home medical care.

Keywords: home medical care; role of pharmacists; inter-professional cooperation; questionnaire survey

緒言

我が国の 65 歳以上の人口は約 3300 万人であり、平均寿命が 83.7 歳と WHO 加盟国の中で最

も寿命が長い国である¹⁾。その一方で、総人口に占める割合は 25%を超えているため、日本は高齢者の割合が非常に高い国でもある。今後、さ

らに高齢化が進展し、国民医療費の増加に伴う財政の圧迫化、医療機関・介護保険施設等の受入れ人数の限界などが予測される中で、それらを解決する方策の一つが在宅医療の推進である。在宅医療は慢性期及び回復期患者の受け皿として、さらに可能な限り住み慣れた場所で自分らしく過ごす「生活の質」を重視した医療提供体制の基盤として重要視されており、その利用者数は年々増加している^{2),3)}。在宅医療を推進するにあたっては、多職種が協働して、医療と介護が連携した地域における包括的かつ継続的な在宅医療提供体制を構築する必要がある。薬局は地域連携拠点の一つとして位置づけられており、そこで働く薬剤師には、ICTなどを活用しつつ患者服薬状況について一元的・継続的に把握するとともに、薬学的管理・指導を実施するという役割が求められている。この役割を果たすことにより、多剤・重複投与や残薬に関する問題点の解消が可能となり、患者の薬物療法における安全性及び有効性が向上するほか、医療費の適正化にもつながる。

このような背景のもと、ここ数年、薬局が担う地域包括ケアシステムにおける環境整備⁴⁾や薬剤師によるフィジカルアセスメントの導入⁵⁾、無菌調剤対応薬剤師の養成⁶⁾といった医療介護に基づく事業が各地で進められており、薬剤師が在宅医療を受ける患者に貢献する機会も徐々に増加してきた。その一方で、「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」(厚生労働省医政局通知 医政発 0430 第1号)の報告書では、薬剤師が十分に活躍できていない場面として在宅医療の業務を挙げており、また訪問看護師の薬剤師業務に対する認識は決して高くはないとの指摘をした報告も存在する⁴⁾ことから、多職種連携コミュニティの中で薬剤師はまだその職能を十分に発揮できていないと考えられる。

そこで今回、我々は、薬剤師がその専門性を発揮し、より綿密な多職種連携を実現するための前段階として、在宅医療に関わる薬剤師と薬剤師以外の職種間での連携の状況と、他職種から薬剤師

に求められている役割を明らかにすることを目的に、福山市で在宅介護における多職種連携の研修会や勉強会の活動を活発に行っている、「福山在宅どうしよう会」(平成23年9月1日発足 代表 小林道男 先生)に協力を依頼し、様々な在宅医療従事者を対象とした意識調査を実施したので報告する。

方法

平成27年7月に開催された、「福山在宅どうしよう会」の研修会に参加した医療従事者を対象に無記名方式によるアンケート調査を実施した。実施にあたっては、事前にアンケートの趣旨説明を行い、調査結果は研究の目的でのみ使用することを伝え、同意した場合にのみ回答していただくように説明した。配布したアンケート用紙を図1に示す。なお本研究は、個人情報保護について「学校法人就実学園個人情報保護に関する基本方針」に従い取り扱うものとし、「学校法人就実学園個人情報保護規程」によって適切な管理と必要な保護を行っている。

結果・考察

1. 薬剤師の役割に関する多職種向けアンケート結果

研修に参加した89名の参加者の内、65名から回答を得た(回収率73%)。内訳は、看護師(34%)、薬局薬剤師(23%)、ケアマネージャー(CM)(27%)、医師・歯科医師(7%)であり、その他介護福祉士、理学療法士、管理栄養士、大学教員から回答を得ることができた。まず、医療従事者同士での連携の円滑さを問う設問では、63%が円滑であると回答した(図2-A)。その理由として、「良好な他職種との連携が良質な在宅医療のために必須だから」、「管理者がすべての情報を管理し連携をとってくれているので、情報が錯綜しない」、「同施設内に全ての部署があり早期に話し合いができる」などの意見があがった。一方、円滑でないと考えている理由には、「医師やCMと情報共有

アンケート用紙

現在、私は大学で「在宅医療における薬剤師の役割」をテーマに卒業研究を行っております。患者様に自宅で少しでも安心して医療を受けていただくため医療スタッフ一人一人の専門性を活かして取組むことが大事だと私自ら考えております。そこで今回、在宅医療に関わっておられる先生方に、薬剤師が果たすべき役割に関する事柄など意見を伺い、その角にアンケート調査を実施させていただきたく存じます。皆様のご理解・ご協力を賜りますこと、よろしくお願ひ申し上げます。なお、アンケート結果につきましては卒業論文としてまとめる他、学会等で発表させていただきますことあるかもしれません。予めご了承ください。

①職種についてお尋ねします。

医師 看護師 病院薬剤師 薬局薬剤師 ケアマネージャー 医薬情報担当者
臨床検査技師 理学療法士 言語聴覚士 臨床心理士 医療事務 大学教員
その他 ()

②他職種との連携は円滑に進行しているとお考えですか。出来れば、理由をお答えください。

はい⇒理由()
いいえ⇒理由()

共通の設問

③薬剤師以外の方にお尋ねします。

④⑥で「はい」とお答えになった方にお尋ねします。

薬剤師は役に立つ存在だとお考えですか。出来れば、その理由もお答え下さい。

はい⇒理由()
いいえ⇒理由()

⑤⑦で「いいえ」とお答えになった方にお尋ねします。

その理由をお聞かせください。(複数回答可)

1. 必要性を感じることがないから 2. 関わりたいが、薬剤師の入り余地がないから
3. 関わる必要性を感じないから 4. 関わり方が関わらまいがどちらでも良いから
5. その他()

⑧薬剤師は在宅医療現場において、どのような活躍をすべきとお考えですか。
薬剤師へのご要望をご自由にお書きください。

薬剤師以外への設問

薬剤師への設問

⑦⑨で「はい」とお答えになった方にお尋ねします。

参加できないときの理由について、お答えいただける範囲内でお聞かせください。

⑩⑪で「いいえ」とお答えになった方にお尋ねします。

今後の退院時カンファレンス参加希望についてお聞かせください。

1. ぜひ参加したい 2. 出来れば参加したい 3. 出来れば参加したくない 4. 全く参加したくない

⑫薬剤師は在宅医療現場において、どのような活躍をすべきとお考えですか。
チーム医療で果たすべき役割に関するお考えをご自由にお書きください。

共通の設問

⑬在宅医療を実施するうえで、大学などの教育現場にご意見・ご提言等ございましたらご自由にお書きください。

⑭在宅医療を学ぶ学生に対して望むこと・知っておいてほしいことなど、ご自由にお書きください。

共通の設問

ご協力誠に有難うございました。

図1 在宅どうしよう会で実施したアンケート

はしているが、その他の職種との連携はあまり取れていない」、「本人や家族の意向とかけ離れてしまうことがある」、「連携に時間の調整が必要であり、それが難しい」といった意見があがった。

円滑ではない理由を挙げた職種に薬剤師が多いと感じたため、職種別に統計を取り直したところ医師・看護師は円滑であるという意見が多数を占め、一方で薬剤師は円滑でないという意見が多くみられた(図2-B)。本調査だけで論じることは困難ではあるが、多職種連携コミュニティーに薬剤師がまだまだ入り込めていないことが示唆される結果となった。続いて、在宅医療現場に

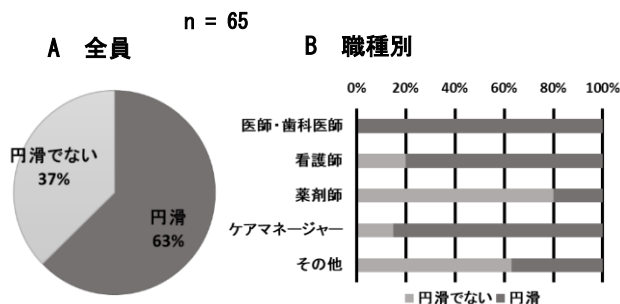


図2 職場における多職種連携の円滑さ

における薬剤師との連携の有無について薬剤師以外の職種に問う設問では 80%が連携ありと回答し、そのうちの 94%が薬剤師は必要な存在であると回答した。また、連携無しと回答した 20%のうち、大半が必要性を感じる機会がないと回答していた(図3-A,B,C)。これらの結果は、薬剤師が在宅医療において重要な役割を果たしていると他職種から認識されていることをあらわしていると考えられる。また、薬剤師が必要である理由を自由記述欄に挙げてもらうと、主に医師からは「薬の専門的な知識に関すること」、主に看護師からは薬を服用する患者の安心・安全に関すること、主に CM からは薬の管理や用法に関する意見が挙がっており(表1)、それぞれの職種内容に応じて薬剤師が必要である理由が異なることがわかった。薬剤師は在宅医療において他職種から必要とされていることを理解し、その理由を知っておくことが、より円滑な連携への近道であると考えられる。

薬剤師以外の職種から薬剤師への要望は、「医

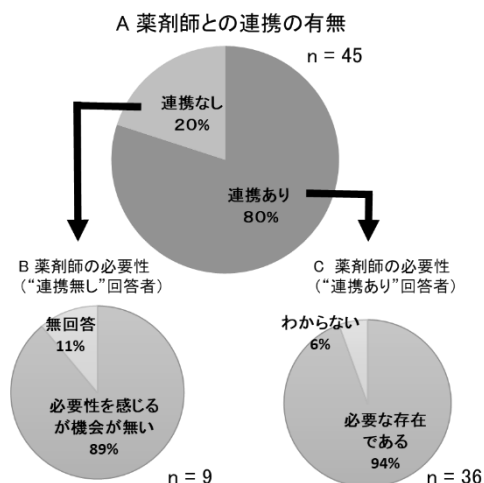


図3 他職種から見た薬剤師との連携の有無とその必要性

師の処方についてきちんと監査ができること」, 「疾患, 病態, 治療の方針を共有した上での良きアドバイザーとしての役割」, 「薬剤の効果, 逆効果のある組み合わせを理解したうえで, 患者に助言でき, 医師にも意見を言えること」, 「薬の飲み忘れ防止のための一包化や色わけサポート」などであり, 主に“処方提案・治療におけるアドバイザーとしての役割”が求められていた。

一方薬剤師が考える薬剤師の役割としては, 「効果・副作用のチェックや残薬確認から処方提案」, 「経管・経腸栄養において医師へのエビデンスに基づく意見」, 「バイタルサインのチェックを行っていける知識と技量」など, こちらも主に“処方提案・治療におけるアドバイザーとしての役割”の意見が大半を占めた。このように, 薬剤師への要望と薬剤師が目指すところは一致していた。従って, より円滑な多職種連携に薬剤師が関わっていくためには, 他の医療介護関連職種に対して薬剤師の職能を薬剤師自身が周知していき, 多職種連携の要の一職種となりうることを在宅医療現場に積極的に発信していく必要がある。この発信先として鍵となるのは訪問看護師であろう。訪問看護師は, 在宅医療において薬の管理に関わる業務を担うことが多く⁷⁾, 他職種の中でも特に看護師は薬剤師の必要性を感じる割合や相談する頻

表1 薬剤師が必要と考えられる理由 (抜粋)

薬の専門的な知識に関すること	
・	剤形, 投与経路, 副作用などの有用なアドバイスを受けられる (Dr)
・	歯科医師は薬剤の知識が足りていないので頼りにしている (Dr)
・	医師の処方後にチェックする専門職が必要 (Ns)
薬を服用する患者の安心・安全に関すること	
・	他の薬との飲み合せや副作用等わかりやすく説明してくれる (Ns)
・	家の状況にあわせてひとりひとり細かな指導をしてもらえる (CM)
・	利用者が独断で受診した際, 薬の重複を防ぐことができた。 (Ns)
薬の管理に関すること	
・	残薬がないように対応してもらえる (CM)
・	特殊な薬の利用方法や管理法を家族全員に話してもらえた (CM)
・	「残薬」「誤薬」のサポート (Ns)

度が高かった⁸⁾との報告があり, 連携を模索する相手として重要な職種であるといえる。その一方で, 訪問看護師に対して薬剤師の職能や取り組み内容が十分に理解されていない⁹⁾といった報告も存在することから, やはり薬剤師自らが行動を起こし, 自分たちの役割をもっと知ってもらう努力を行わなければならないと考えられる。

今回の調査を通じて, 在宅医療にかかわる多くの職種で, 薬剤師としての職能が必要とされていることが明らかとなった。また, 求められている職務内容は求めている側の職種によって異なっていたことから, 在宅医療現場において薬剤師は様々な医療介護系職種から今後ますます活躍を期待されているとあって過言ではない。しかし, 今回は多職種間で上手く連携が取れている地域での調査であったため, 薬剤師の重要性に関する理解を得やすかったことが調査結果に反映されたとも考えられる。また, 地域によって求められる薬剤師の役割は当然異なるはずである。従って, 今後は様々な地域圏において, 薬剤師果たすべき役割に関する調査を継続して行っていくとともに, 薬剤師がチーム医療を支える屋台骨の一角となりうることを他職種及び地域住民に認識してもらうための薬剤師職能の情報発信方法について検討していきたい。

謝辞

本研究を遂行するにあたり、在宅どうしよう会の紹介とアンケートの調整にご尽力くださいました(株)ファーマシィ山根暁子先生に心より感謝申し上げます。また、今回調査にご協力頂きました在宅どうしよう会代表小林道男先生、副代表丸山典良先生、ならびに会に参加された先生方、関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

引用文献

- 1) WHO : 世界保健統計 2016, (2016)
- 2) 厚生労働省 : 在宅医療の体制構築に係る指針, (2014)
- 3) 国立長寿医療研究センター : 在宅医療・介護連携のための市町村ハンドブック, (2013)
- 4) 榊原幹夫 : 地域包括ケアシステムでの薬局薬剤師の活躍, 日本静脈経腸栄養学会雑誌, 30, 789-792. (2009)
- 5) 今西孝至, 赤尾優輔, 池邊晋一郎, 高山明 : 在宅医療における薬剤師のフィジカルアセスメント実施に対する訪問医・訪問看護師の意識調査, 薬局薬学, 8, 173-181. (2016)
- 6) 増田修三 : 地域密着型の NST 活動 薬剤師の立場から, 静脈経腸栄養, 29, 1157-1163. (2014)
- 7) 高田雅弘, 中野祥子, 三田村しのぶ, 宮崎 珠美, 菊田真穂, 小森浩二, 首藤誠, 七山知佳, 森谷利香, 吉村公一, 石橋文枝, 埜由美子, 山本淑子 : 薬局及び訪問看護ステーションにおける他職種連携に関する調査研究, 社会薬学 34,116-127. (2015)
- 8) 赤井那実香, 藤田和歌子, 徳山尚吾 : 薬剤師の在宅緩和ケア参画に関する医師並びにコメディカルの意識調査, YAKUGAKU ZASSHI, 129, 1393-1401. (2009)